# 映像学会第４９回大会　プログラム

| １日目　（2023年６月１０日　土曜日） | |
|---|---|
| 13:30<br>14:00 | 開　会　式<br>大会テーマ「東アジア・情動・フェミニズム」 |
| 14:00<br>15:30 | 基調講演「悲しみが私たちを連れて行くところ：哀悼、場所、女性史」<br>金素榮（韓国総合芸術大学校教授・映画監督） |
| 15:30<br>15:50 | 休　　憩 |
| 15:50<br>17:00 | 対　談　「東アジア・情動・フェミニズム」というテーマを受けて<br>金素榮×斉藤綾子（明治学院大学教授／日本映像学会会長）<br>モデレーター　韓燕麗（東京大学教授） |
| 休　憩 | |
| 17:30 | 交　流　会　（インナー広場） |

| ２日目　（2023年６月１１日　日曜日） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | A 研究発表 | B 研究発表 | C 研究発表 | D 研究発表 | E 研究発表 | F 作品発表 |
| 10:00<br>10:30 | 1 | (エブギン シェムセッディン)　占領期日本映画におけるスタジオの役割：GHQと観客の間の松竹 | （羅霄怡）<br>不/可視な公共秘密：フィクションとドキュメンタリーの間にある残留孤児の日常的な表象 | （山本祐輝）<br>環境音の拡張と聴取――ウォルター・マーチのサウンド・デザインをめぐって | （顧　夢テイ）<br>鷹野隆大の都市写真における距離の現れ－「カスババ」と「Photo-Graph」を中心に | (王　馨怡)<br>狂気を問い直す：『サイコだけど大丈夫』（2020年）と『収容病棟』（2013年）における精神障がい者 | |
| 10:40<br>11:10 | 2 | (龔　主)<br>廊下の制服警官――テクストの分析比較から見た映画『笑の大学』 | (具　珉婀)<br>ナショナル・アイデンティティの再構築と反共主義――韓国映画における在日朝鮮人の表象 | (朝倉由香利)<br>『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズの音楽－ライトモチーフ《仲間のテーマ》考察－ | (李　範根)<br>日本リアリズム写真集団の「新しい写真運動」とその実践的方法としての「共同制作」――写真集『長崎の証言』（1970）を手掛かりに | (木下耕介)<br>物語映画のグラフィックな語り　―　映画のデータ・ストーリーテリングについての試論 | (景山貴史)<br>『Blue Minor』（短縮版） |
| 11:20<br>11:50 | 3 | (大傍正規)<br>南極探検記録映画の複数バージョン–1930・1950年版の同定研究 | (江　韋韋)<br>「17年映画」における喜劇映画の中の女性像 | (今村純子)<br>沈黙の音楽――村田朋泰監督『朱の路』をめぐって | (伊奈新祐)<br>ミュージック・ヴィデオ研究をめぐって　～「メディアアートとしての映像」の視点から ～ | (住本賢一)<br>映画における特殊効果映像およびCGIの「リアリズム」の分類と関係 | (大橋　勝)<br>愛着対象としてのフィルム、オブジェクト、映画機構～ダイレクト・フィルム・メイキングによる作品制作 |
| 12:00<br>13:30 | 昼　　食 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13:30<br>14:00 | 4 | (中村秀之)<br>『人情紙風船』再考――その形式と作動について | (張　倩)<br>アメリカに対抗する中国イメージの展開　～1950、60年代の中国映画を中心に～ | （草原真知子）<br>着物は映画をどう映してきたか：1930年前後の「面白柄」に見る映画とその周辺 | (鈴木浩之)<br>地球観測衛星を利用した地上絵アニメーション表現技術に関する研究 | (雑賀広海)<br>カンフー映画史にたいする二つの解釈――『燃えよ！じじぃドラゴン 龍虎激闘』と『カンフー・ジャングル』 | (佐藤結花)<br>布フィルム『clojector』 |
| 14:10<br>14:40 | 5 | (柴田康太郎)<br>地方都市における映画館経営と映画興行――大正期の尾花劇場関連資料を中心に | (韓　瑩)<br>『聾唖の三龍』から見る1960年代の韓国映画の越境とその挫折 | （辰巳知広）<br>映画衣裳としての洋服の歴史をたどる――黎明期から衣裳デザイナー誕生まで | (萩原由加里)<br>大藤信郎の制作技法、および交流に関する再検討 | （ヴェルナー・シュテファン）<br>日本の特撮・スーパー戦隊シリーズのダークヒーローの独自性 | （ブルベス・ジェローム）『Naxos（Ghost World V）』・3DCG映像制作による即興性の研究 |
| 14:50<br>15:20 | 6 | (内山翔太)<br>『恋の花咲く　伊豆の踊子』論――人びとの空間的な移動という観点から | (梁　仁實)<br>1960年代韓国映画における「在日」女性の居場所 | （高崎郁子）<br>英国フィルム・ノワールにおける女性描写の一考察 | (林　緑子)<br>サークルとしてのアニメーション文化――1980年代を中心に | (伊集院敬行)<br>ペドロ・アルモドバルの『セクシリア』における「倒錯」とスペインの歴史的トラウマ | (栗原康行)<br>映像作品『Structural Film』（構造映画） |
| 15:30<br>16:00 | 7 | (新堀太一)<br>*Anderssonskans Kalle* (1922)と同時代のスウェーデンにおける子ども映画をめぐる認識 | (丁　智恵)<br>冷戦期日本における映像メディア運動史再考：在日朝鮮映画人のネットワークを中心に | (設楽ゆう子)<br>ジャン・ルノワールによる『ボヴァリー夫人』における盲人像の考察 | （龐　鴻）<br>ヨリス・イヴェンス『愚公山を移す』におけるパフォーマンス ― 上海档案館から発見した撮影記録資料に基づいて | (西村智弘)<br>瀧口修造の前衛文化映画論－－「文化映画と詩」の逆説的アヴァンギャルド | |
| 16:10<br>16:40 | 8 | (森宗厚子)<br>無声映画期における女性脚本家たちの台頭――時代劇の林義子（日活）・社喜久江（マキノ・東亜）と現代劇の水島あやめ（松竹）を中心に | (福島可奈子)<br>レンズでみる「あの世」の表象について―覗きからくり、錦影絵、明治幻燈などの比較を中心に― | （常石史子）<br>Tonbild（音＝画）－ドイツ語圏における初期「無声」映画の一形態 | (水由　章)<br>映画の変容／実験映画作家 フィル・ソロモンの独自性 | （羅　熙寧）<br>映画『仄暗い水の底から』における＜水＞の恐怖表現の役割<br>――――陰湿感を醸成する効果の考察 | |
| 16:50<br>17:20 | 9 | (藤田奈比古)<br>走るユートピア　沢島忠の描く群衆のゆくえ | (王　子易)<br>今井正とジャンル映画としての「戦後民主主義映画」 | (橋本典久)<br>「おどろき盤」が意味する装置はいつからフェナキスチスコープになったか | (細馬　宏通)<br>ELANを用いた映画のショット分析の可能性 | (水野　勝仁/きりとりめでる）「モノとディスプレイとの重なり」の振り返りから考える日本のポストインターネット・アートにおける「ディスプレイ」の役割 | |

※　発表教室は確定次第、ホームページにてお知らせいたします。